

第3学年2組 音楽科学習指導案

指導者 島田 成美

- 1 題材名 せんりつのとくちょうをかんとろう
教材名 表現「あの雲のように」(芙龍明子 作詞/作曲者不明)
鑑賞「メヌエット」(ベートーベン作曲)
表現「山のポルカ」(チェコ民謡/岡部栄彦 編曲)
表現「ふじ山」(文部省唱歌/巖谷小波 作曲)

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

- | | | |
|--------|---|---|
| A表現 | (1) ア | 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。 |
| | イ | 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。 |
| | ウ | 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。 |
| | エ | 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。 |
| | (2) ア | 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。 |
| | イ | 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。 |
| B鑑賞 | ウ | 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。 |
| | エ | 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。 |
| | ア | 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。 |
| [共通事項] | イ | 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。 |
| | ウ | 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。 |
| | ア(ア)音色、リズム、 旋律 、音の重なり、拍の流れ、 フレーズ (イ)反復、変化 イ 4分の3拍子、タイ | |

(1) 題材観

本題材では、旋律の特徴を感じ取りながら、曲想とその変化を感じ取って聴いたり、楽曲を聴いて感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いたりすること、また、旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現を工夫しながら、思いや意図をもって歌ったり演奏したりすることをねらいとしている。

児童はこれまでに、自分の歌声の発声や発音に気を付けて友達と声を合わせて歌ったり、音遊びをしながら簡単なリズム創作を行ったり、互いの楽器の音や伴奏を聴いて音を合わせて楽器を演奏したりする活動を行ってきた。また、拍子の違いや曲想の変化を聴き取る学習もしている。

このような経験を踏まえて、本題材では、音楽を特徴付けている要素の一つである旋律に着目し、その特徴を感じ取ったり、特徴によって生み出される曲想をとらえたりしながら、表現と鑑賞の活動を進めていく。また、それらを生かして、自分の思いや意図をもって表現する能力を伸ばしていきたい。

低学年から育ててきた音楽に対する感性を高めながら、中学年ではより具体的に旋律の音の上がり下がりやリズムに着目し、曲想を感じ取り、それにふさわしい豊かな表現の仕方を工夫していきたい。そのために、旋律の動きをどうとらえさせるかが重要である。視覚的、また身体感覚

を大事にした手立てを講じ、「音が上向しているこの部分を盛り上げたい」「伸ばす音の多い部分はなめらかに演奏したい」などの自分の思いや意図を、強弱や歌い方、タンギングの仕方などの表現の工夫につなげられる児童の姿を目指したい。

本題材における小・中学校のつながりとしては、中学年では旋律の特徴にふさわしい歌い方や演奏の仕方を身に付け、高学年ではそこから生み出される曲想にふさわしい表現を工夫したり、曲想の変化を感じ取ったりしていく。また、中学校では曲想を感じ取りパートの役割を理解して歌ったり、作曲者の思いを感じ取り、それが他者に伝わる表現を工夫したりしていく。

このように旋律の特徴をつかむところから、曲想を感じ取り、それにふさわしい表現を工夫していく学習を積み重ね、より豊かな表現へとつなげていきたい。

(2) 児童の実態 (男子19名、女子19名、計38名)

本学級の児童は、大変明るく活発で、音楽の学習にとっても意欲的に取り組んでいる。

3年生で始まったリコーダーの学習では、多くの児童が休み時間に教室で練習している。また、曲に合わせて体を動かすことが大好きで、曲の感じの変化を恥ずかしがらずに体の動きで表現できる児童が多い。

歌唱では、肩の力を抜いてまっすぐ立ったり、話す声と歌う声を分けたりすることができている友達の真似をしてみよう、自分もやってみようという意欲的な児童が多い。どの児童も表情がよく、響く声を目指して取り組んでいる。しかし、どんな曲でも最初から最後まで同じように歌うことが多いので、強弱や声色の表現を工夫するきっかけにしたい。

| | | |
|-----|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 音楽の学習はすきですか。 | 7月14日実施 |
| (1) | とてもすき 29人 (76.3%) | (2) すき 6人 (15.7%) |
| (3) | あまりすきではない 3人 (7.8%) | (4) きらい 0人 (0%) |
| 2 | 音楽のどのような学習がすきですか。(複数回答可) | |
| (1) | 歌う学習 34人 (89.4%) | (2) 楽器をつかう学習 21人 (55.2%) |
| (3) | 簡単な音楽をつくる学習 18人 (47.3%) | (4) 音楽をきく学習 23人 (60.5%) |

〈考察〉

9割以上の児童が音楽の学習はすきという肯定的な答えを出した。また、歌唱の学習は他の分野の学習よりすきと答えた児童が多い。普段の様子をみると、音楽の学習に前向きに取り組み、生き生きとした表情でのびのびと歌っている児童が多い。

| | | |
|-----|------------------------------|---------|
| 3 | 2つの音を聴いて、どちらが高いか答えましょう。 | 7月14日実施 |
| (1) | 単音オクターブ [木琴] 正答 38人 (100%) | |
| (2) | 単音オクターブ [鉄琴] 正答 20人 (52.6%) | |
| (3) | 打音 [コンガ・ボンゴ] 正答 31人 (81.5%) | |
| (4) | 和音オクターブ [ピアノ] 正答 36人 (94.7%) | |
| (5) | 単音5度 [ピアノ] 正答 31人 (81.5%) | |

〈考察〉

ほとんどの児童が全問正解していた。実施中の様子からも、悩んで答えるというより即答している児童が多く、聴く耳が育ってきているようだ。しかし、鉄琴の音の高低がわかりづらかったよう

で、音の種類によって聴こえ方が異なるようである。また、連なった音のつながりの中で高低が把握できるかは不明確である。音の高さに合わせて手や体を動かす活動を進め、音の高低という感覚を身につけていきたい。

| | | | |
|---|------------|------------------|-----------|
| 4 歌を歌う時に、気を付けていることはありますか。(複数回答可) | | 9月8日実施 | |
| ・表情よく歌う | 12人(31.6%) | ・高くひびく声を出すこと | 8人(21.1%) |
| ・姿勢をよくする | 10人(26.3%) | ・歌詞を間違えないで歌うこと | 4人(10.5%) |
| ・口の開け方 | 9人(23.6%) | ・お腹から声を出すこと | 1人(2.6%) |
| 5 校歌をもっとよい演奏にするには、どのような工夫ができますか。(複数回答可) | | 9月8日実施 | |
| ・大きな声で歌う | 8人(21.1%) | ・音の高さに気を付ける | 3人(7.9%) |
| ・きれいな声で歌う | 5人(13.1%) | ・「幕張東わが母校」を強く歌う | 3人(7.9%) |
| ・口を大きく開ける | 4人(10.5%) | ・伸ばすところをしっかりと伸ばす | 1人(2.6%) |

〈考察〉

質問4からは、普段から歌うときに気を付けていることがわかった。表情や姿勢、口の開け方や発声については、昨年度からいつも声掛けをしていることなので、気を付けている児童が多かった。歌詞の様子を思い浮かべたり、強弱に気を付けたりすることについての回答はなかったので、本題材の学習で歌唱表現の工夫の視点を増やしていきたい。

また質問5では、既習曲に対してどのような工夫ができるか考えさせた。無回答の児童も数名おり、工夫して歌うという経験があまりないことがわかった。しかし、音の高さに気を付けたり、曲の山であるフレーズを強く歌ったりするなどの回答もあった。本題材の学習のヒントとなる意見を全体で共有していける授業展開にしていきたいと考える。

(3) 指導観

歌唱教材「あの雲のように」は、ゆったりとした歌詞や曲想の3拍子の教材である。旋律の音の上がり下がりを感じ取り、いろいろな声の出し方を試しながら、曲想にあった声で歌えるように歌い方を工夫し、響きのある歌声を目指していきたい。

鑑賞教材「メヌエット」では、旋律の特徴や曲想の変化を感じ取り、感じ取ったことを言葉などで表したり、図形楽譜を見て旋律の音の上がり下がりを確認したりしながら学習をする。バイオリンの音色の美しさを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、楽曲全体を味わわせたい。

器楽教材「山のポルカ」では、リコーダーの新しい運指を覚え、音色やタンギング、フレーズに気を付けながら、旋律の特徴に合う演奏を学ばせたい。また、曲のまとまりを感じ取りながら、伴奏や友達の音を聴いて演奏させたい。

歌唱教材「ふじ山」では、歌詞の表す情景を思い浮かべながら、のびのびとした声で歌えるようにしたい。旋律の音の上がり下がりや、リズムに気を付けて歌詞唱したりしながら曲の山を感じ取らせ、それが伝わるような歌い方の工夫を考え、表現させていきたい。

3 題材の目標

- ・旋律の特徴を感じ取りながら、曲想とその変化を感じ取って聴いたり、楽曲を聴いて感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いたりする。
- ・旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現を工夫しながら、思いや意図をもって歌ったり演奏したりする。

4 題材の評価規準

| 音楽への関心・意欲・態度(関) | 音楽表現の創意工夫(創) | 音楽表現の技能(技) | 鑑賞の能力(鑑) |
|---|---|--|---|
| ①旋律の特徴が生み出す曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。【関①】 | ①旋律やリズムの特徴を聴き取り、それらの違いを感じ取って、楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。【創①】 | ①歌詞の内容、旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現で歌っている。【技①】 | ①旋律の音の上がり下がりやリズムが生み出す曲想の違いに気を付けて聴いている。【鑑①】 |
| ②旋律の特徴を感じ取り、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。【関②】 | ②旋律の特徴を聴き取り、旋律とリズムのかかわりや曲の山を感じ取って、表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。【創②】 | ②3拍子の拍の流れにのり、旋律の特徴やその違いを生かして、リコーダーを演奏している。【技②】 | ②楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取り、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。【鑑②】 |
| ③歌詞の内容、旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。【関③】 | | ③範奏を聴いたりハ長調の楽譜を見たりして、リコーダーを演奏している。【技③】 | |
| | | ④アとイの旋律の特徴やその違いを生かして、リコーダーを演奏している。【技④】 | |
| | | ⑤曲の山を生かし、歌詞の内容、旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現で歌っている。【技⑤】 | |

6 題材の指導計画及び評価計画（9時間扱い）

| 次 | 時 | ○学習内容 ・主な学習活動 | ◆評価規準 |
|------------------|------------------------------------|---|---|
| 第一次 「あの雲のように」 | ねらい 旋律の音の上がり下がりに気をつけて演奏する。 | | |
| | 第1時 | ○旋律の音の上がり下がりを感じ取りながら歌う。 ○主な旋律の音の上がり下がりを感じ取りながら、曲想に合う歌い方で歌う。 ・曲想に合った声の出し方についての意見を発表しあい、試す。 | ◆旋律の特徴が生み出す曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。【関①】 ◆歌詞の内容、旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現で歌っている。【技①】 |
| | 第2時 | ○主な旋律の音の上がり下がりを感じ取りながら、旋律の特徴を生かして演奏を工夫する。 ○3拍子の拍の流れにのり、旋律の特徴を生かして演奏する。 ・①のパートと②のパートを合わせて、柔らかいきれいな響きで演奏する。 | ◆旋律やリズムの特徴を聴き取り、それらの違いを感じ取って、楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。【創①】 ◆3拍子の拍の流れにのり、旋律の特徴やその違いを生かして、リコーダーを演奏している。【技②】 |
| 第二次 「メヌエット」 | ねらい 旋律の音の上がり下がりやリズムに気をつけて聴く。 | | |
| | 第3時 | ○旋律の特徴を感じ取って聴く。 ・アとイそれぞれの旋律の特徴に合わせて、体を動かしたり指揮のまねをしたりしながら聴く。 ○旋律の音の上り下がりやリズムに気をつけて聴く。 ・ワークシートにアとイの旋律の違いをまとめる。 | ◆旋律の特徴を感じ取り、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。【関②】 ◆旋律の音の上がり下がりやリズムが生み出す曲想の違い気を付けて聴いている。【鑑①】 |
| | 第4時 | ○バイオリンの音色や楽曲全体を味わって聴く。 ・バイオリンを演奏するまねをしながら、アとイの違いを感じ取って聴く。 | ◆楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取り、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。【鑑②】 |
| 第三次 「山のポルカ」 | ねらい 旋律の特徴を感じ取って吹く。 | | |
| | 第5時 | ○旋律の特徴や楽曲の構成を感じ取り、アの旋律をリコーダーで演奏する。 ・ファとミの運指を確認し、アの旋律を演奏する。 | ◆範奏を聴いたりハ長調の楽譜を見たりして、リコーダーを演奏している。【技③】 |
| | 第6時 | ○旋律やリズムの特徴を聴き取り、運指や音色に気を付けて演奏の仕方を工夫する。 ・イの1と2のパートを階名唱する。 ・1の2のパートを合わせてリコーダーで演奏する。 | ◆旋律やリズムの特徴を聴き取り、それらの違いを感じ取って、楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。【創①】 |
| | 第7時 | ○旋律の特徴の違いや曲のまとまりを感じ取りながら演奏する。 ・タンギングに気を付けて演奏する。 | ◆アとイの旋律の特徴やその違いを生かして、リコーダーを演奏している。【技④】 |
| 第四次 「ふじ山」 | ねらい 旋律の音の上がり下がりから曲の山を感じ取り、のびのびと歌う。 | | |
| | 第8時 | ○曲想をつかんで歌う。 ・歌詞を音読し、情景を想像する。 ・旋律図を見ながら、音の上がり下がりに気を付けて歌う。 | ◆歌詞の内容、旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。【関③】 |
| | 第9時 (本時) | ○強弱表現を考える活動を通して、旋律の音の上がり下がりや曲の山を感じ取りながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 ・強く歌いたい部分の音の上がり下がりや歌詞の内容に着目し、曲の山をどのように歌ったらよいか意見を出し合い、歌い方を工夫する。 | ◆旋律の特徴を聴き取り、旋律とリズムのかかわりや曲の山を感じ取って、表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。【創②】 ◆曲の山を生かし、歌詞の内容、旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現で歌っている。【技⑤】 |

7 本時の学習 (9/9)

(1) 本時の目標

旋律の音の上がり下がりやリズムによって生み出される曲の山が、伝わるような歌い方を工夫して歌うことができる。

(2) 展開

| 学習内容と学習活動 | ○教師のかかわり ◆評価規準 (評価方法) |
|---|--|
| <p>1 今月の歌「もみじ」を歌う。</p> <p>2 「ふじ山」を歌う。 ・歌う前に歌詞を朗読し、情景を思い浮かべる。 ・日本一の富士山の様子を思い浮かべながら歌う。</p> <p>3 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 日本一のふじ山が伝わるように歌おう。 </div> | <p>○明るい雰囲気になるよう声をかけたり、児童一人一人の顔を見て歌ったりする。</p> <p>○情景や様子を思い浮かべやすいよう、拡大写真を掲示する。</p> |
| <p>4 日本一のふじ山が伝わるように歌うためには、どういう工夫が必要か考える。</p> <p>5 「ふじ山」の強弱を考える。 ・範唱を聴きながら、強く歌いたいところで手を挙げる。</p> <p>6 強くしたいと思った理由を確認する。 ・旋律図を元に音の上がり下がりや歌詞に着目する。 ・近くの友達と意見を出し合う。 ・全体で意見を出し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 強くしたいところは、音が高くなっているよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 「富士は日本一の山」という歌詞は、やっぱり一番伝えたいんじゃないかな。 </div> | <p>○今までの学習を振り返るよう声をかける。</p> <p>○強弱の工夫に着目できるように、既習曲を歌ったり、「ふじ山」を全部弱く、また全部強く歌ったりする。</p> <p>○視覚的にとらえやすいように旋律の動きを線にした旋律図を掲示し、また、全体の手の上がり具合を見取って、強弱を書き込むようにする。</p> <p>○主体的に活動が進んでいくよう、まずは自分で考える時間を設ける。</p> <p>○強弱から、音の上がり下がりという視点、歌詞の内容から作曲者の伝えたかった思いや感動という視点を持てるように助言する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆旋律の特徴を聴き取り、旋律とリズムのかかわりや曲の山を感じ取って、表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。【創②】 <発言内容、行動観察></p> </div> |
| <p>7 強弱に気を付けて歌う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 強くしたいところの前は、もう少し弱く歌った方がいいと思うよ。 </div> | <p>○聴き役を一人立て、歌った後にアドバイスなどをするこ とで、よりよい表現を目指す姿勢を育てるようにする。</p> <p>○まとめの歌として録音し、事前のものと比較して聴かせ る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆曲の山を生かし、歌詞の内容、旋律の特徴などが生み 出す曲想にふさわしい表現で歌っている。【技⑤】 <演奏聴取、行動観察></p> </div> |
| <p>8 「曲の山」という言葉を知る。</p> | <p>○「曲の山」の意味とその工夫について、本時の学習を振 り返し、今後も生かしていくよう助言する。</p> |